

第 10 回（令和 2 年度 第 1 回）経営評価委員会 議事録

令和 2 年 8 月 4 日（火）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
和泉市立総合医療センター3 階講堂

出席委員：高杉委員長・鹿島委員・露口委員・槇野委員・吉岡委員（5 名）

【内容】

<議題>

① 令和元年度 運営状況について

指定管理者から「資料 1 和泉市立総合医療センター運営事業 令和元年度運営状況」に沿って、令和元年度の運営状況の報告を行った。

- ・ 1 日あたりの患者数は入院が 309 人、外来患者数が 970 人となり、それぞれ前年度比で 10 人、120 人の増加となった。
- ・ 診療単価は、入院は前年度から 7.4%増。外来については、前年度と比べて 15.8%増となった。
- ・ 救急患者数は 14,874 人となり、前年度比で 54 人の増加となった。救急患者のうちの搬送者は 3,557 人、搬送者の入院率は 32.6%となった。
- ・ 和泉市消防本部からの救急搬送件数は 2,303 人となり、前年度比で 48 人（2.0%）減、市外搬送は 3,004 人へと 200 人（7.1%）の増加となった。
- ・ 平均在院日数は全診療科で 11.4 日となり、前年度比で 0.6 日短縮された。
- ・ 患者紹介率は紹介患者受入増に伴い 71.3%となり、前年度比で 2.4 ポイント増加し、逆紹介率も 18.3 ポイント増加の 63.8%となった。
- ・ 人間ドックの件数は 1,505 人となり、前年度比で 82.2%の増となった。
- ・ 患者サービス向上に係る取り組みとして、出前講座や医療講演、災害時医療訓練を行った。また、提案ポスト（投書件数）について、お礼が 25 件、苦情・要望等が 216 件、総件数 241 件があった。
- ・ 医業収益は、17.8%増の 116 億 7,449 万 5 千円、経常損益は 8 億 1,844 万 6 千円の黒字の黒字となった。

上記報告に関して委員から以下の質疑等があった。

（委員）

6 ページの人間ドック件数は、最大何人まで受け入れが可能なのか。

（指定管理者）

人間ドックの最大受入数は定めていない（1 日 6 名を目安に柔軟に運用）。1 日にできる胃カメラの検査数に限りがあるが、現状では検査の最大対応数には至っていない。今後は、健診用機器の環境整備の充実を図って、受入増加を図りたい。

(委員)

12 ページの繰越利益積立金が 14 億 6,115 万 3 千円となっているが、今後どのように使われていくのか。

(指定管理者)

総合医療センター独自で対応する医療機器の更新や修理などに充てていくことになる。また、患者サービス向上に繋がることに活用していきたい。

(委員)

4 ページの救急搬送で市外件数が増えている。増えた要因はなにか。

(指定管理者)

参考資料 3 の件数から見ると、近大医学部付属病院や堺市立総合医療センターへの搬送件数が増加している。要因としては、全体的に高度救急が多かったと考えている。

(委員長)

救急搬送の受け入れ件数を増やす工夫は必要ではないか。

(指定管理者)

病床稼働率が 100%を超えているため、救急搬送の受け入れができていないのも現状ではある。受け入れ件数を増やすには、医師の確保、受入体制の整備が必要となってくるので検討していきたい。

(委員)

9 ページの災害時医療訓練を行ったとなっているが、関係機関に災害拠点病院は含まれているのか。

(指定管理者)

災害拠点病院である岸和田徳洲会病院は含まれていない。今回の災害時医療訓練は、主に行政機関等との情報伝達を中心に行ったが、今後は災害拠点病院との連携も図りたい。

(委員)

出前講座や医療講演を年何回行ったかこの資料ではわからない。回数を記載すべきでは。

(指定管理者)

次回から記載するよう検討したい。

(委員)

投書内容について、患者と医療関係者（医師・看護師）の内容もあると思われるので、

記載すべきでは。また、投書内容を分析した結果も記載してもどうか。

（指定管理者）

該当する内容があれば記載するよう検討する。また、分析結果や投書内容についてもどのように取り組んだか記載するようにする。

（委員長）

投書内容及び回答を掲示することはできないのか。また、医師、看護師、職員等も情報共有すべきでは。

（指定管理者）

ホームページに掲載していくとともに、院内に掲示できるよう検討したい。また、職員等の情報共有も行いたい。

（委員）

新型コロナウイルスによる影響はあったのか。

（指定管理者）

社会情勢に伴い、受診控えがあったことから運営面の影響が大きく 3 月から入院・外来ともに患者数が減少し、昨年度と比較すると約 2～3 割、収益も減少している。6 月からは徐々に従来の数字に戻ってきている。

（委員）

令和元年度と比較し来年度の決算状況がどうなるかはあるが、引き続き、収益があがるよう努力してもらいたい。

（指定管理者）

令和元年度に引き続き、収益が黒字となるよう努力していく。

② 令和元年度 進行管理（PDCA）チェックシート兼経営評価シートについて

事務局から「資料 2 令和元年度 進行管理（PDCA）チェックシート兼経営評価シート」に沿って指定管理者の自己評価、市、委員会の評価を報告した。

（委員）

4 ページ 8 番の地域医療機関について、自己評価を「3」にしているが、地域医療支援病院の指定が取れば、自己評価を「4」にする予定であったのか。

（指定管理者）

地域医療支援病院の指定が取れていないので、自己評価は「3」にした。指定が取れるよう努力し、取れば自己評価を「4」にしたい。

(委員)

5 ページ 10 番の待ち時間について、この資料だけでは、何を基準に評価したらいいのかがわからない。例えば診療科ごとの待ち時間のデータはないのか。また、過去のデータもあればより一層良いのでは。

(指定管理者)

基準を示した資料を提示できるよう検討したい。また、総合医療センターが開院（平成 30 年 4 月）してからのデータを分析したい。

(委員長)

他に特に意見がないので、この PDCA の数字を委員会の評価としたい。〔各委員了承〕

③ 令和元年度 答申（案）について

事務局から「資料 3 令和元年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による運営状況の評価について（答申）（案）」を説明した。

- 評価については、採点方式とともに、数値で表示しがたい点については、委員会からの意見を付した。
- 救急患者数は前年度に比べ 54 人の増加となり、救急搬送件数は前年度に比べ 48 人の減少となった。
- 入院、外来患者数は、ともに前年度を上回る数字となった。
- 評価結果としては、先ほどの資料 2 の結果を反映させており、100 点満点で 94 点、総合評価が 5 段階で 1 番目の「S」となった。
- 付帯意見としては、経営が黒字であれば、市民へのサービス還元、医療環境の充実について検討されたいという意見や、医療サービスとして、スタッフの確保、人材育成に取り組んでいただきたい。また、救急医療については、医師等を含めた救急体制を整えるほか、現在、満床ではあるが病床稼働率を減らし、救急患者の受け入れを増やすことも考慮されたいなどの意見をいただいた。
- 総括として、医療機器の導入や医師等の増員が行われたことで、昨年度よりも患者数も増加している。救急医療についても令和元年度も受け入れ件数も増となり、公立病院としての使命を果たしていることに高く評価したい。また、地域の中核病院に求められる機能整備が着実に進められていることが認められる。
令和元年度の管理運営状況においては、入院・外来患者数は前年度を上回り、収支面も含め前年度に引き続き好成績となった。
好調の要因として、医師の増員や医療機器の更新の他にも、新病院での効率的な病床管理を実行するなど、指定管理者の運営面での手腕を評価するコメントとしている。

(委員)

2 ページ③の収支状況について、医業収益が増となったことで、収支状況は増益と明

記しているが、表を見る限り前年度比較とではマイナスになっている。経常損益が前年に比べ減になっているのであれば、減益と記載すべきでは。

（事務局）

委員長と相談のうえ、表現を修正し報告したい。

（委員）

3 ページ②の医療サービスについて、地域医療機関との連携強化に取り組んでいる。そのため、紹介率、逆紹介率も前年度を上回っているので、記載してもどうか。また、地域医療支援病院の指定を目標に掲げているのであれば、指定が受けれるよう取り組んでいただきたい。

（事務局）

地域医療機関の連携強化、紹介率、逆紹介率について、委員長と相談のうえ追記など対応する。

（指定管理者）

地域医療支援病院の指定を受けれるよう取り組んでいきたい。

④ 令和2年度評価の諮問について

事務局から「令和2年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による運営状況及び和泉市立病院新改革プラン実施状況の評価について（諮問）」の説明を行った。

- 和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則第2条に基づき、令和2年度も実施状況の点検・評価をお願いしたい。

（委員長）

意見等はないか。

なければ、本日の議事は以上で終了とする。

（事務局）

委員長はじめ委員の皆様、長時間ありがとうございました。

（副市長から閉会にあたり挨拶を述べる。）